

## 関係団体アンケート調査報告書

### (1) 目的

計画策定にあたって、町民主体の取り組みやテーマ別の課題、今後の意向等を把握し、新たなアクションプログラムを検討するための基礎資料とすることを目的に実施しました。

### (2) 調査概要

調査時期	令和4年 6月～7月
調査方法	各担当課による対象団体への配布・回収
調査対象	町内で積極的に活動しているまちづくり団体(前期計画策定時の対象団体を踏襲)
回答団体	90 団体

### (3) 調査対象団体

分野ごとに選出した次の団体に対し調査を実施し回答をいただきました。

#### 【健康・福祉】…21 団体

健康づくり普及員・母子保健推進員、ヘルスメイト・まつだ、民生委員児童委員協議会(松田地区・寄地区)、ふれあい相談員、松田町遺族会、社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会(社協録音ボランティア含む)、松田さくら保育園保護者会、子育て支援センター、ファミリー・サポート松田、松田町更生保護女性会、シニアクラブ松田、松田町シルバー人材センター、松田いきいき元気の会、グループホームみやまの里、セントケアホームあしがら、松田町身体障害者福祉協会、特定非営利活動法人 KOMNY すみれの家、コスモス学園松田センター、放課後等デイサービス喜の実

#### 【教育・文化】…8団体

松田小学校 PTA、寄小学校 PTA、松田中学校 PTA、青少年指導員会、文化財保護委員会、大名行列保存会、スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ ゆいスポーツクラブ

#### 【経済・産業】…9団体

森林組合、松田町農業委員会、松田町鳥獣被害対策実施隊、商工振興会、商工青年会、ハローワーク松田、松田町観光協会、寄地区振興協議会、藍で染めよう！

#### 【暮らし・基盤】…6団体

小田急電鉄(株)新松田駅、東海旅客鉄道(株)松田駅、箱根登山バス(株)、箱根登山ハイヤー(株)、松田合同自動車(株)、富士急湘南バス(株)

#### 【自然・環境】…19 団体

環境美化推進委員(13 地区)、エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議、小田原市消防本部、松田町消防団、松田警察署、松田町交通指導隊、防犯ボランティア

#### 【実現手段】…27 団体

自治会(25 地区)、つなぐみらい まつだラボ、NPO 法人アシガラパートナーズ

#### (4) 調査内容

1)団体の概要について

2)前回調査時からの貴団体の活動の変化について

問1 この4年間での活動の変化

(1)運営する側の人数

(2)活動への参加者(利用者)

(3)活動の頻度

(4)活動範囲(エリア、対象等)

(5)活動資金・予算

問2 この4年間での特に大きな変化や変化の要因

(1)特に大きな変化

(2)変化の要因

問3 特に必要な支援

3)松田町のまちづくり戦略プロジェクトについて

問4 団体の活動と関連するまちづくり戦略プロジェクト

問5 戦略について協力できることやアイデア

4)SDGs<持続可能な開発目標>について

問6 団体の活動と関連する SDGs ゴール

問7 SDGs 達成に向けて協力できること、今後取り組みたいこと

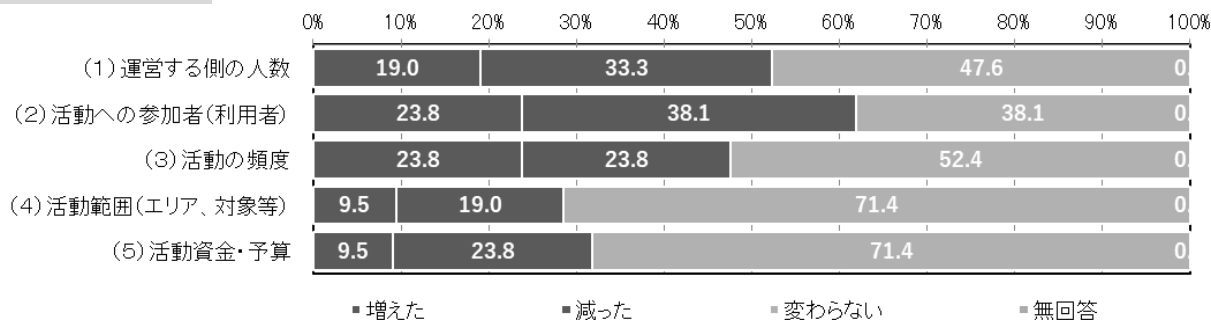
## (5) 主な調査結果

分野ごとにとりまとめた調査結果の概要は以下の通りです。

### 【健康・福祉】(N=21)

#### Q1:この4年間での活動の変化について

⇒「変わらない」が多いものの、活動への参加者(利用者)については「減った」という意見もやや多い。



#### Q2-1: この4年間での特に大きな変化について

⇒年間行事の中止や対面や訪問による活動の中止、会員の減少などの意見がみられる一方、この間に人員増強や組織強化を行った団体もみられる。

#### Q2-2:変化の要因について

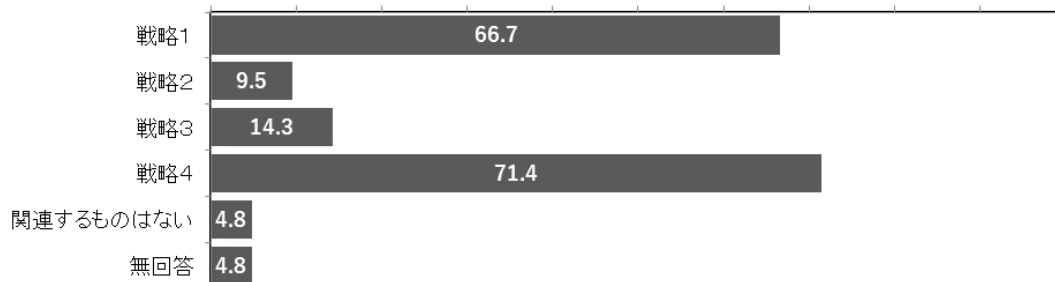
⇒会員の高齢化やつながりの希薄化という意見のほか、新型コロナウイルス感染症の流行による活動自粛の影響という意見が特に多い。

#### Q3:特に必要な支援について

⇒活動に関する情報発信や活動の担い手の育成・補充のほか、感染症対策物資の補助を含めた経済的支援なども求められている。

#### Q4:団体の活動に関連するまちづくり戦略プロジェクト

⇒戦略1(コミュニティをさらに活性化する仕組みづくり)及び戦略4(次世代の育成・女性活躍・高齢者活躍の場づくり)が多い。

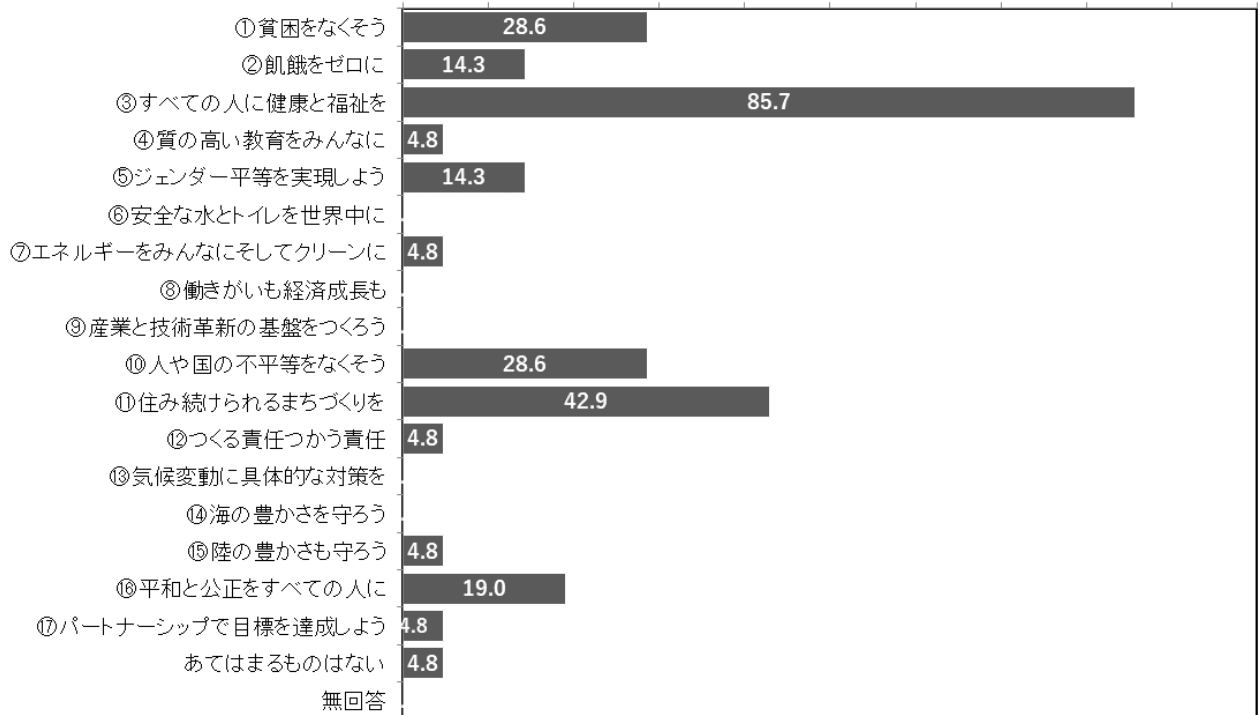


**Q5:戦略について協力できることやアイデアについて**

⇒それぞれの活動を継続すること、活性化することによって人と人とのつながりを広げていくことや、施設系の団体からはさまざまな人同士の交流による人材育成や理解の広がりなどを期待する意見もみられる。

**Q6:団体の活動に関連する SDGs ゴール**

⇒ゴール3(すべての人に健康と福祉を)やゴール11(住み続けられるまちづくりを)が多い。



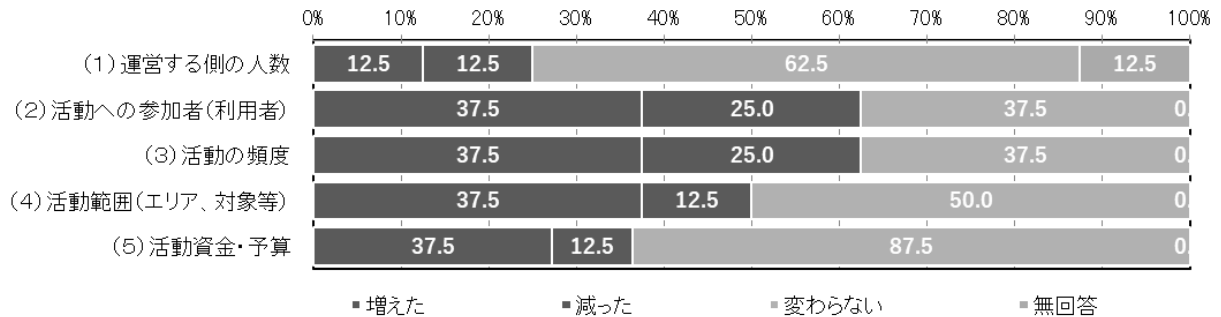
**Q7: SDGs 達成に向けて協力できること、今後取り組みたいことについて**

⇒健康維持・増進に向けた取組や食を通じた取組などのほか、障害福祉への理解促進などによる、誰もが暮らしやすい地域づくり、みんなが活躍できるまちづくりなどが挙げられている。

## 【教育・文化】(N=8)

Q1:この4年間での活動の変化について

⇒いずれの項目も「変わらない」という意見が多いものの、参加者や頻度、活動範囲が「増えた」という意見もみられる。



Q2-1: この4年間での特に大きな変化について

⇒行事の中止や参加者の自粛などコロナ禍での影響が挙げられるなか、対面で行うべきものとそうでないもの見極めができたことやこの機に活動内容を充実したという意見もみられる。

Q2-2:変化の要因について

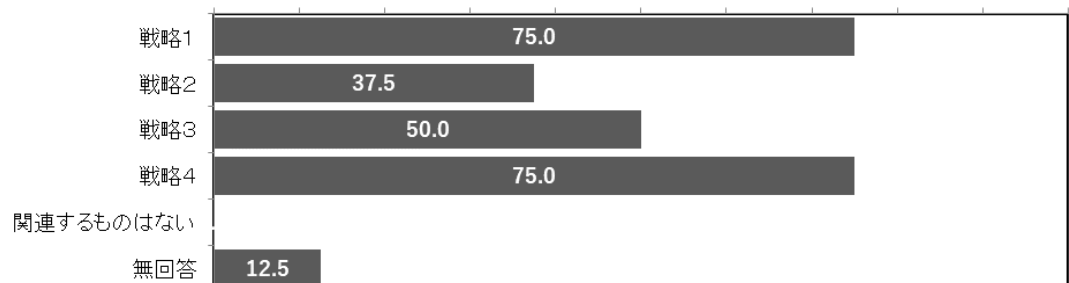
⇒新型コロナウイルス感染症の影響を挙げる声もあるが、組織内の役員交代や関係機関との密な連携、人材の確保や交流を行ったことも挙げられている。

Q3:特に必要な支援について

⇒活動を担う人材の育成、専門家の確保や派遣、企画運営での協働、町民へ向けた広報、活動に対する資金面での支援などが挙げられている。

Q4:団体の活動に関連するまちづくり戦略プロジェクト

⇒戦略1(コミュニティをさらに活性化する仕組みづくり)及び戦略4(次世代の育成・女性活躍・高齢者活躍の場づくり)が多い

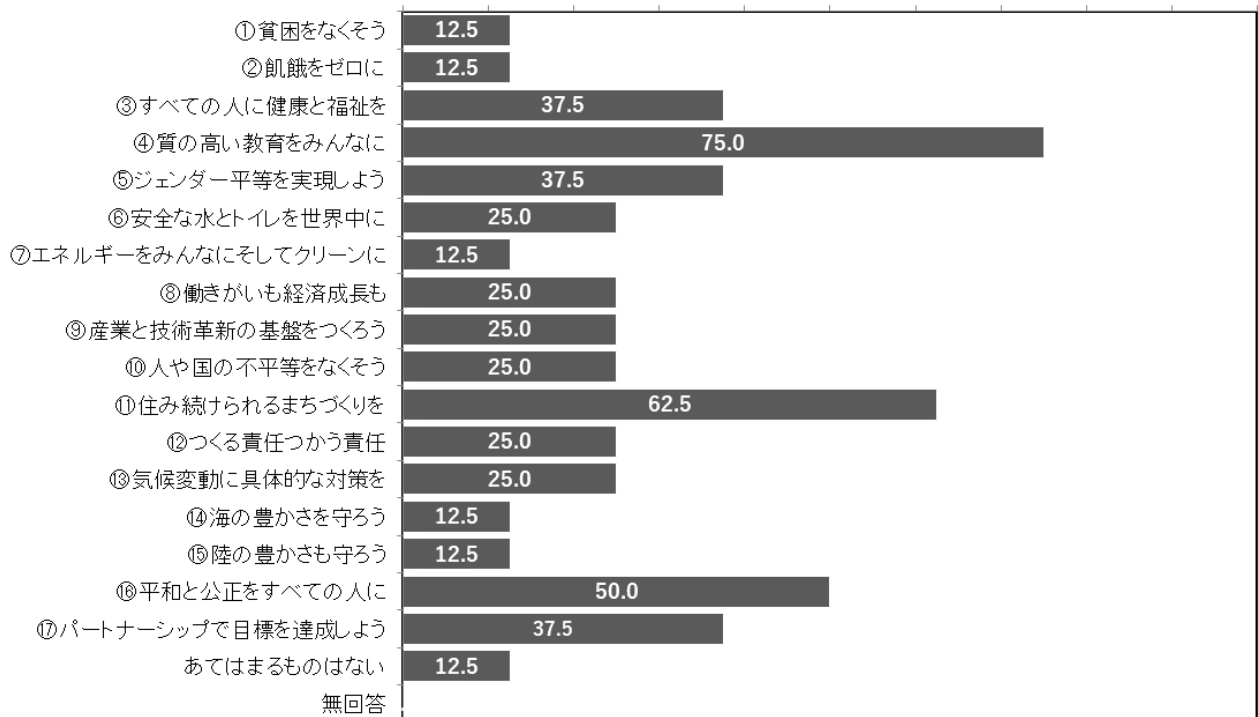


Q5:戦略について協力できることやアイデアについて

⇒子どもたちの意見や希望を聞き、子どもたちも参加できる、広がりのあるプロジェクトという意見や、地域の文化・歴史、地域スポーツなどを通じて多様な世代が仲間となり同じ時間、空間で交流することを大切にする、『3つの“間”を見直す』ことの提案なども挙げられている。

Q6:団体の活動に関連する SDGs ゴール

⇒ゴール4(質の高い教育をみんなに)やゴール11(住み続けられるまちづくりを)、ゴール16(平和と公正をすべての人に)が多い



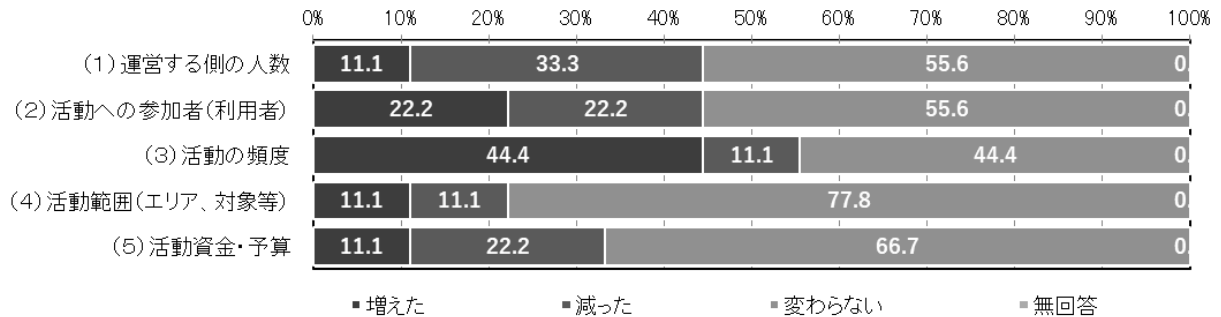
Q7: SDGs 達成に向けて協力できること、今後取り組みたいことについて

⇒家庭や教育の場など日常の中で SDGs を意識することや地域の文化・歴史に触れる機会、スポーツなどに気軽に参加できる機会づくり、活動を支える人材育成や活用などの意見が挙げられている。

【経済・産業】(N=9)

Q1:この4年間で活動の変化について

⇒いずれの項目も「変わらない」という意見が多いものの、活動の頻度は「増えた」という意見もみられる。



Q2-1: この4年間で特に大きな変化について

⇒農業では高齢化や後継者不足などが挙げられているほか、商業や観光では営業自粛や行事の中止などがある一方、活動の見直しなどにより新たなメンバーの参入などもみられる。

Q2-2:変化の要因について

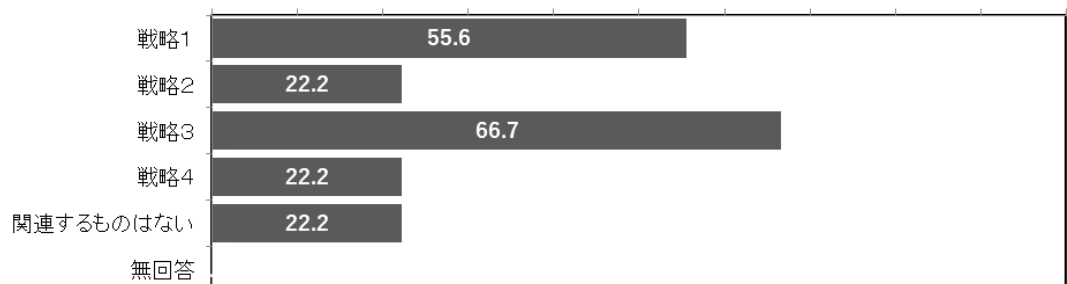
⇒新型コロナウイルス感染症の流行による影響を挙げる声がある一方、次なる活動に向けて新たな事業を始めたり、若い世代や町外の人に活動への参入を促すなどの取組がみられる。

Q3:特に必要な支援について

⇒町からの情報提供や活動の場などへの支援のほか、農業や商業などの各分野に応じた公的な事業展開や支援策への要望が求められている。

Q4:団体の活動に関連するまちづくり戦略プロジェクト

⇒戦略4(次世代の育成・女性活躍・高齢者活躍の場づくり)が多く、次いで戦略1(コミュニティをさらに活性化する仕組みづくり)が多い。

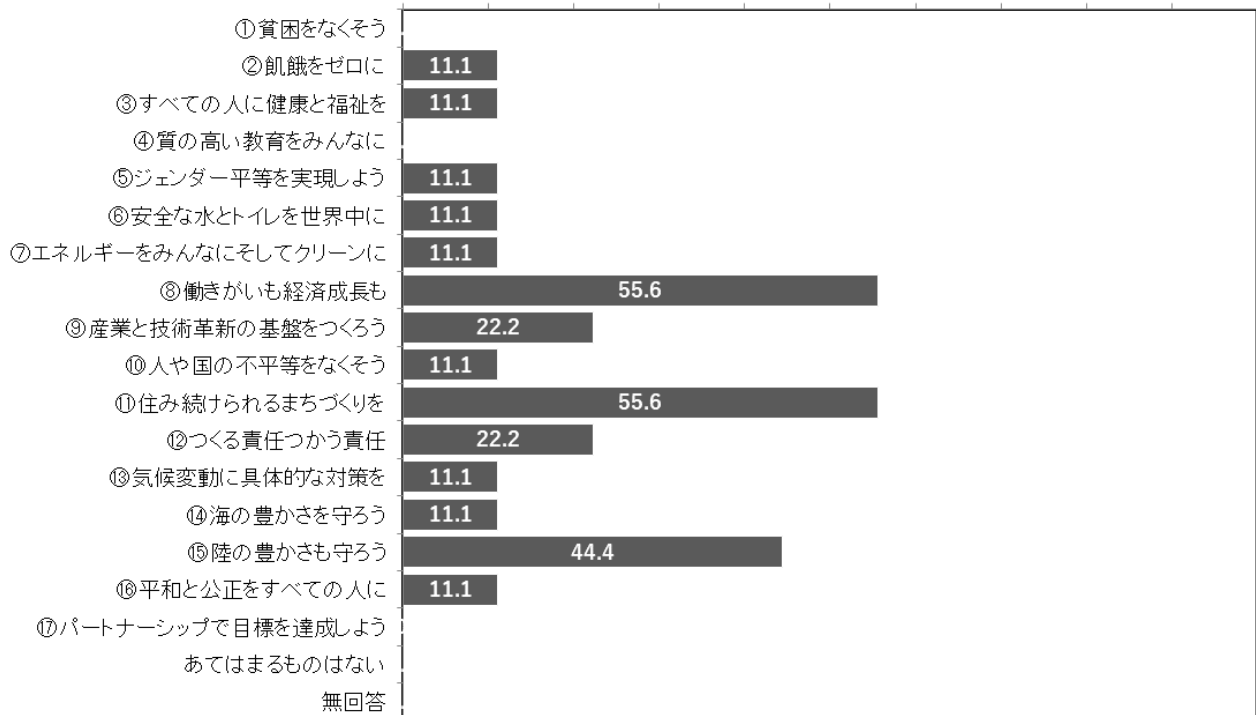


Q5:戦略について協力できることやアイデアについて

⇒木質バイオマス、ジビエ肉や藍など、地元の資源のさらなる活用などのほか、寄地区における事業の更なる展開や地域同士の連携、交流などへの期待が寄せられている。

Q6:団体の活動に関連する SDGs ゴール

⇒ゴール8(働きがいも経済成長も)やゴール11(住み続けられるまちづくりを)、ゴール15(陸の豊かさを守ろう)が多い



Q7: SDGs 達成に向けて協力できること、今後取り組みたいことについて

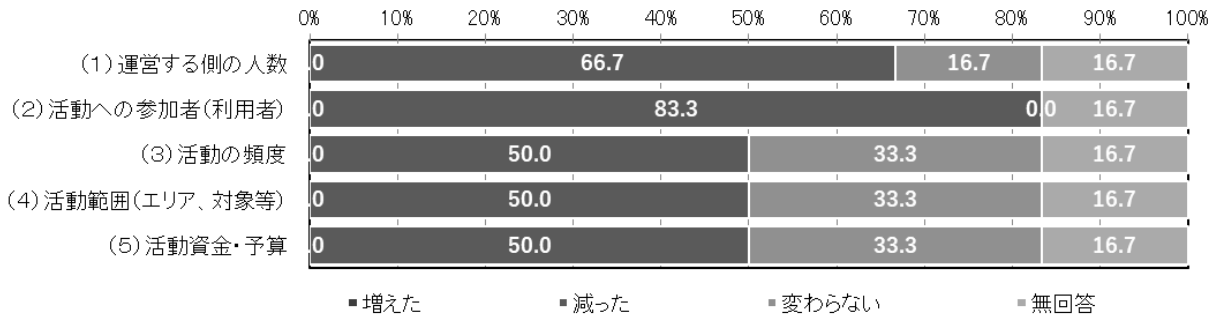
⇒資源循環や脱炭素社会の実現に向けた取組や防災面も加味した農地の保全などのほか、多国籍・多文化共生に向けた対応や地域振興の行事の再開、自然と調和した生活の推進などが挙げられている。



【暮らし・基盤】(N=6)

Q1:この4年間での活動の変化について

⇒電車、バス、タクシー等の公共交通機関では特に利用者が「減った」という意見が多い。



Q2-1: この4年間での特に大きな変化について

⇒鉄道やバス利用者の減少、自然災害による箱根エリアの旅客数の減少、燃料の高騰や人材不足などが挙げられている。

Q2-2:変化の要因について

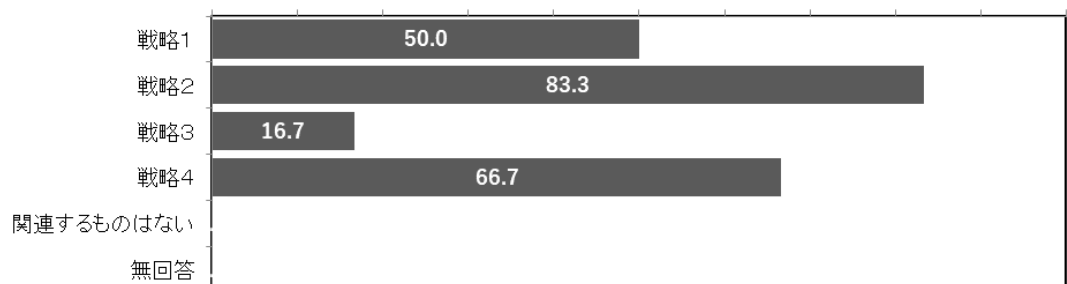
⇒新型コロナウイルス感染症の蔓延による生活様式の変化、特に通勤や旅行などの行動自粛という意見が多い

Q3:特に必要な支援について

⇒地方公共交通の路線存続のため、行政による利用促進などの働きかけやイベント等による集客を求める声のほか、燃料高騰に対する支援も求められている。

Q4:団体の活動に関連するまちづくり戦略プロジェクト

⇒戦略2(新松田駅・松田駅周辺のまちづくりプロジェクト)及び戦略4(次世代の育成・女性活躍・高齢者活躍の場づくり)が多い

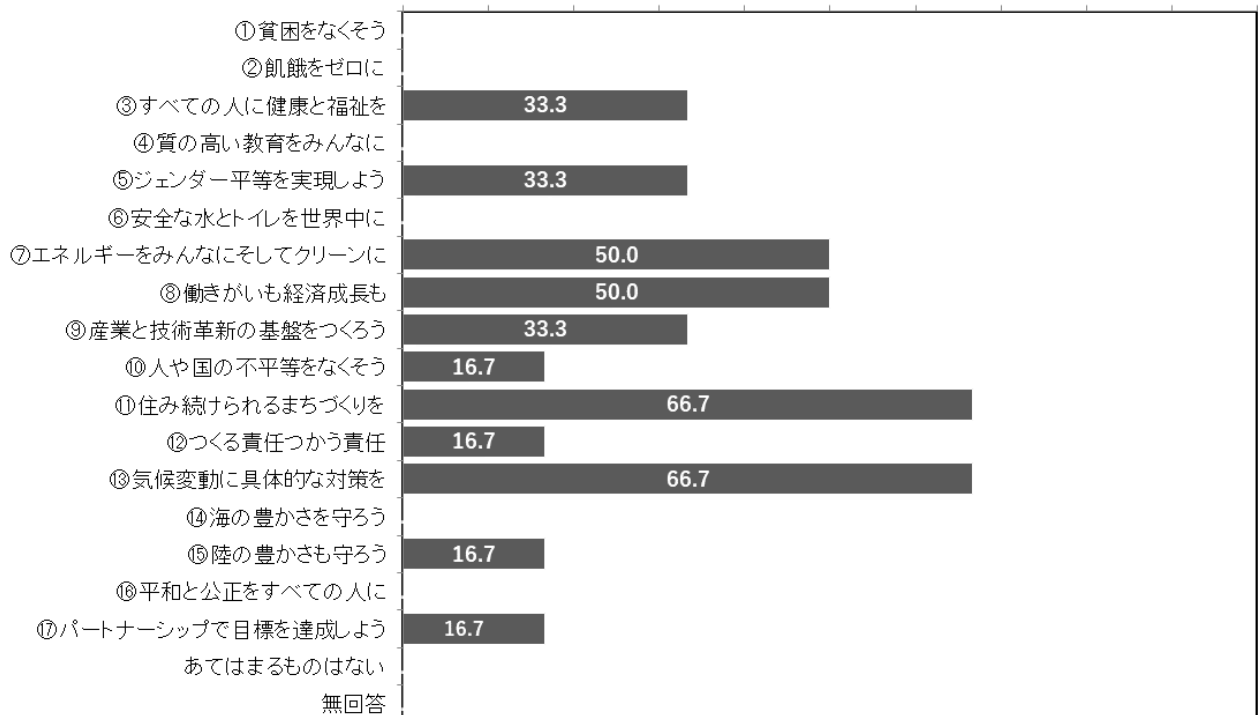


Q5:戦略について協力できることやアイデアについて

⇒鉄道会社として取り組んでいる子育て支援でのまちとの連携や公共交通を利用した地域活性化プロジェクトなどのほか、高齢化(免許返納)や環境対策、災害時の連携などでの貢献などが挙げられている。

Q6:団体の活動に関連する SDGs ゴール

⇒ゴール11(住み続けられるまちづくりを)やゴール13(気候変動に具体的な対策を)、ゴール7(エネルギーをみんなにそしてクリーンに)、ゴール8(働きがいも経済成長も)などが多い



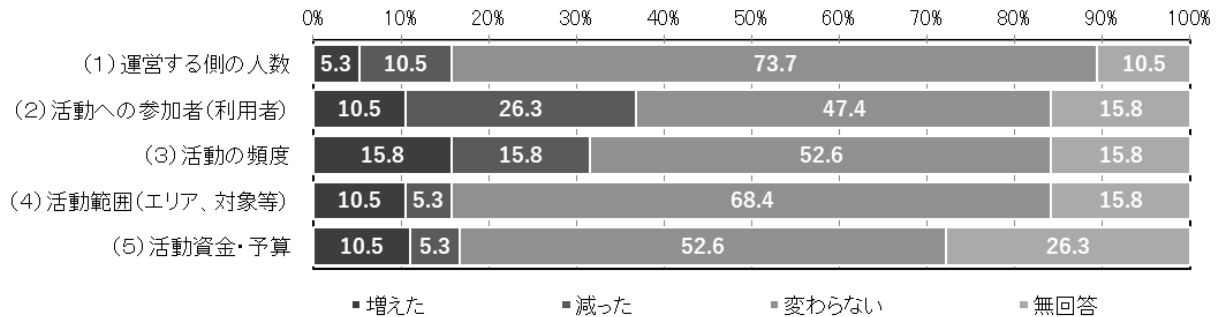
Q7: SDGs 達成に向けて協力できること、今後取り組みたいことについて

⇒地震や河川氾濫時の連携、駅前ロータリー整備などの利便性向上、健康増進にも寄与する観光企画商品、気候変動対策に配慮した車両導入などが挙げられている。

【自然・環境】(N=19)

Q1:この4年間での活動の変化について

⇒いずれの項目も「変わらない」という意見が多いものの、活動への参加者(利用者)は「減った」という意見もみられる。



Q2-1: この4年間での特に大きな変化について

⇒年間行事や地域活動の中止や参加者の減少、対面会議の減少とWEB会議の増加などが挙げられている。

Q2-2:変化の要因について

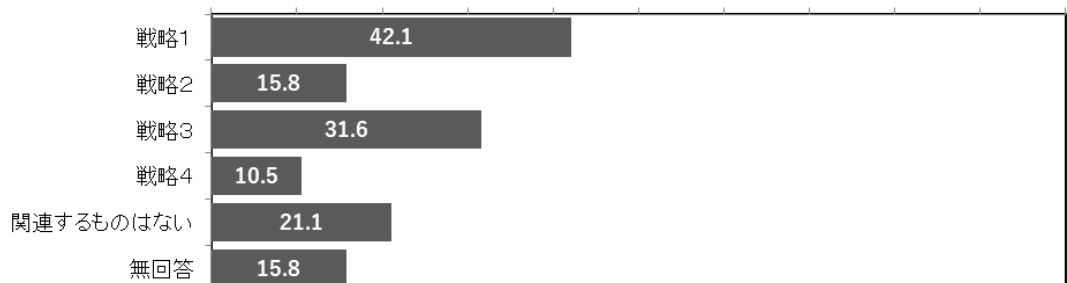
⇒新型コロナウイルス感染症の流行による影響という意見が多いほか、メンバーの高齢化という意見もみられる。

Q3:特に必要な支援について

⇒環境美化推進委員からは収集日以外に出されたごみの回収や対応を求める声があるほか、消防行政にかかる積極的な支援や省エネルギー診断などの民間活用などが挙げられている。

Q4:団体の活動に関連するまちづくり戦略プロジェクト

⇒戦略1(コミュニティをさらに活性化する仕組みづくり)及び戦略3(地域資源のブランド化)が多い。

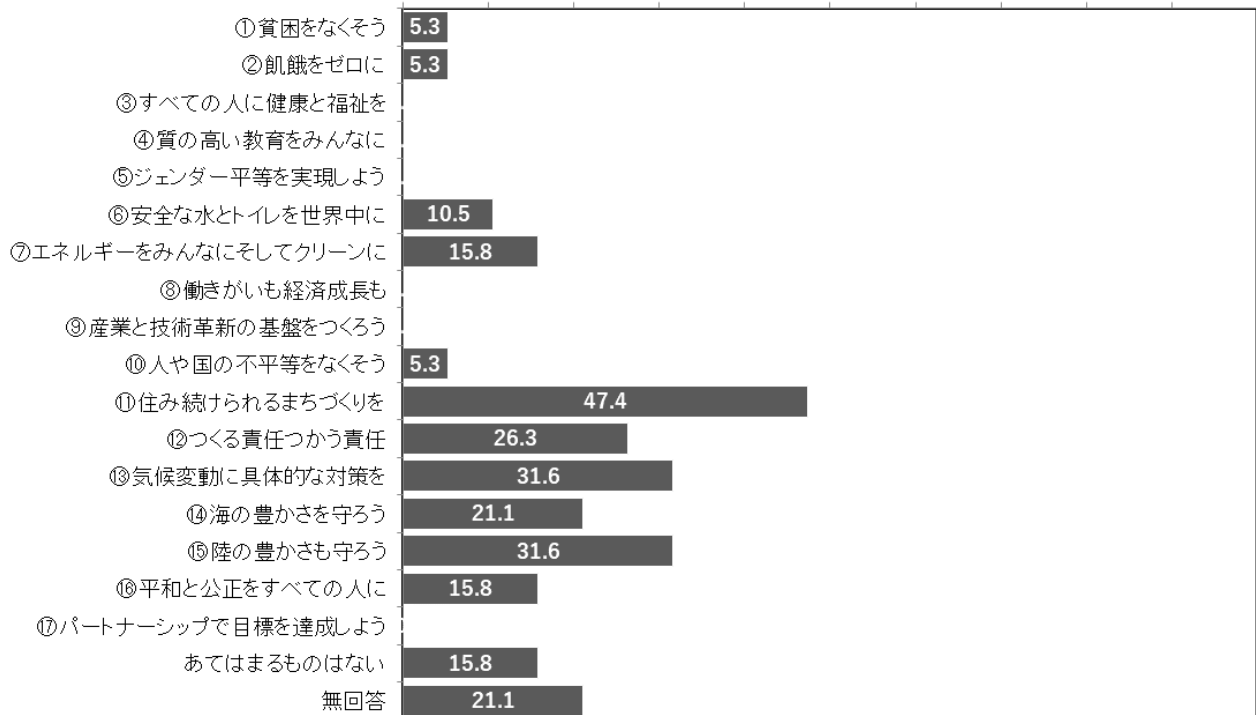


Q5:戦略について協力できることやアイデアについて

⇒地域の環境美化の推進によるきれいな町、美しい町づくり、駅周辺から松田山方面にかけての整備によるまちの活性化、交通安全に関する取組などの意見が挙がっている。

Q6:団体の活動に関連する SDGs ゴール

⇒ゴール11(住み続けられるまちづくりを)やゴール13(気候変動に具体的な対策を)、ゴール15(陸の豊かさを守ろう)が多い。



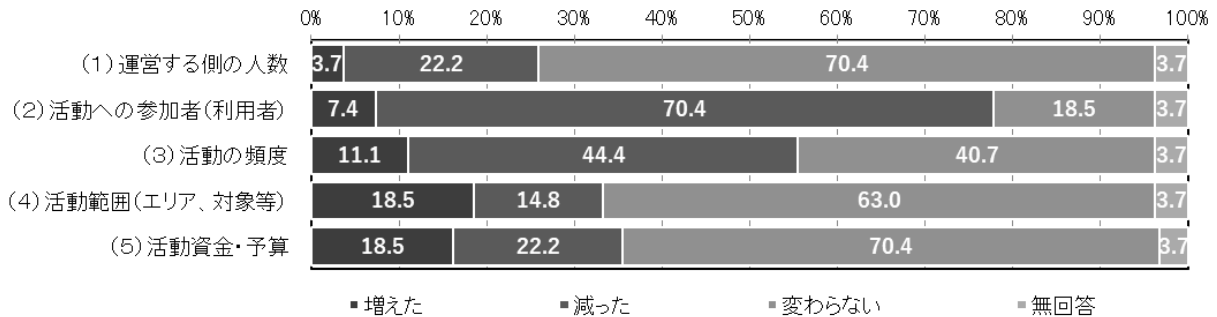
Q7: SDGs 達成に向けて協力できること、今後取り組みたいことについて

⇒環境美化による美しいまちづくりのほか、休耕地の利活用、災害時の体制強化や予防・防災の推進などが挙がっている。

## 【実現手段】(N=27)

Q1:この4年間での活動の変化について

⇒運営側の人数や活動範囲、活動資金・予算は「変わらない」という意見が多いものの、参加者や頻度は「減った」という意見が多い。



Q2-1: この4年間での特に大きな変化について

⇒自治会の集まりや地域行事が減少したという意見のほか、イベントや企画なども開催できていないという意見が多い。

Q2-2:変化の要因について

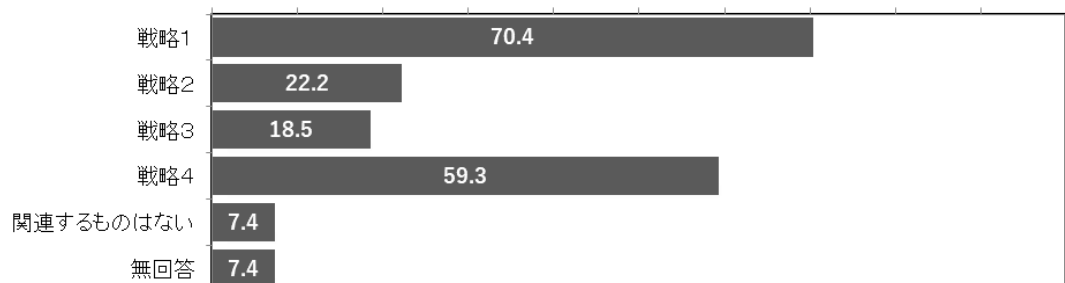
⇒新型コロナウイルス感染症の蔓延による外出制限や集会、会食の制限のほか、会員の高齢化や若い世代の参加不足、地区内の居住者の減少などが挙げられている。

Q3:特に必要な支援について

⇒自治会の担う業務の見直しや電子化の推進、担い手不足への支援、自治会同士のネットワーク化のほか、みんなが安心して集まれる活動場所の確保や機材整備などが挙げられている。

Q4:団体の活動に関連するまちづくり戦略プロジェクト

⇒戦略1(コミュニティをさらに活性化する仕組みづくり)及び戦略4(次世代の育成・女性活躍・高齢者活躍の場づくり)が多い。

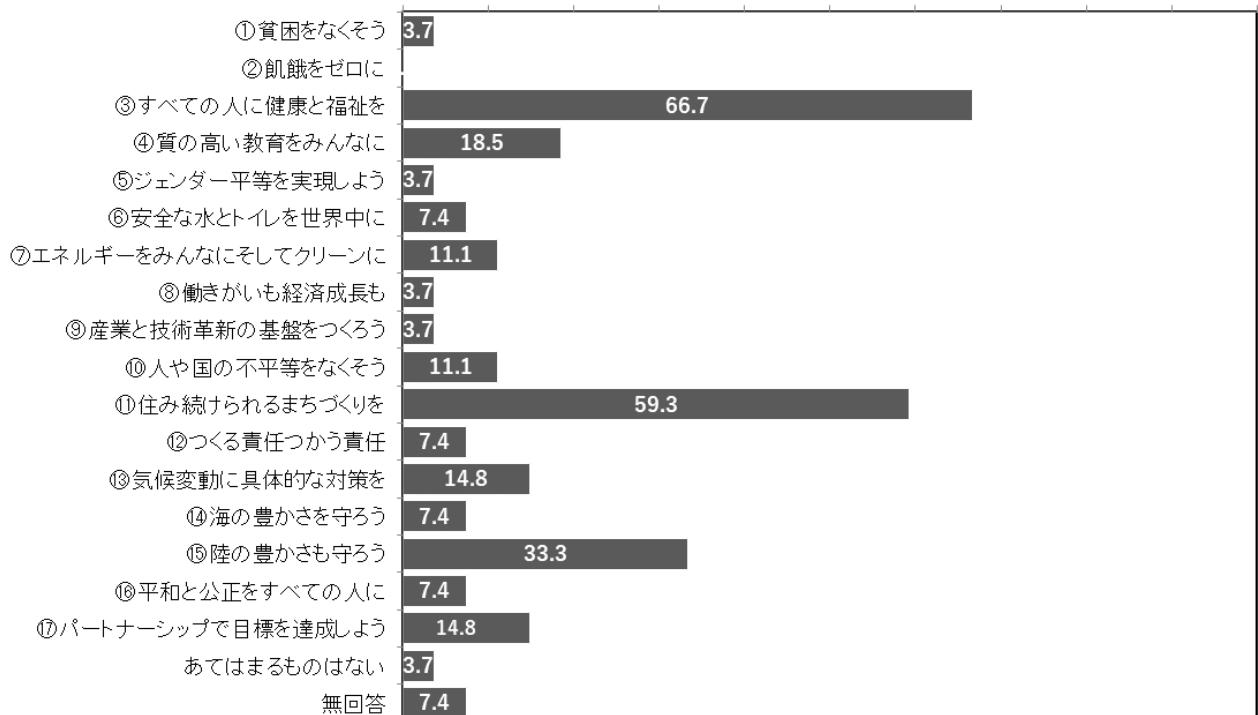


Q5:戦略について協力できることやアイデアについて

⇒自治会からは他の自治会や他市町との連携交流の促進や駅周辺整備をはじめとする活性化、子どもや高齢者等にやさしいまちづくりなどが挙げられているほか、文化的なイベントの企画や空家活用、町内外の結びつき強化による経済活性化などが挙げられている。

Q6:団体の活動に関連する SDGs ゴール

⇒ゴール3(すべての人に健康と福祉を)やゴール11(住み続けられるまちづくりを)、ゴール15(陸の豊かさを守ろう)が多い



Q7: SDGs 達成に向けて協力できること、今後取り組みたいことについて

⇒安全で災害に強い地域づくりや人と人とのつながりの強化、再生可能エネルギーの利用や環境美化、スポーツ等を通じた健康増進のほか、地域に根差した観光体験づくりなどが挙げられている。また、自治会としての SDGs に向けた取組について町からも発信してほしいとの意見もみられる。